貴重書

忠孝早染草

上冊

山東庵京山作

一勇齋國芳画

福川堂梓

六百三拾六
国
特別
196
国
2
1144

40. 8. 26
ア306531

忠孝早染草

上冊

山東庵京山作
一勇齋國芳画

天保癸卯發板
福川堂梓

忠孝早染草

初編 上下

天保十四年卯春
橋本同辰春
新板発兒

京山作
國芳画

悪
清書稿

ゆるひよなまうだをあるあひれが川口
つくりていそくせんせのあらぞや善悪二つをあるの
は里堂の二つふありとれを召物ふたとえてらべ
朱子家訓の唐里堂の
論語孟子ゆそとき
ゆるひありけやくその
ふくれすぎこの
ふくれゆるひ
のふくさきりこん
そのふくさゆるひ
きづつきて後をやめんと
あ夫くも朱子家訓
のさきをそうして朱子グ
ゝへのときゆるひとそのめてくふどもの
をゝへのちゝとるきびふくさごしのふくさ
ゆるひいるうべゝされどとそ子供者ゆるせる
拍ゑれが四角四めんるゆだろうるべてい四五
はゝとゝてあくびをさびあくびもらでぎ

善

女房

ゆすめ

ある人のそく
夫を敬ハ画ふ
ふきてゆ
ふとゝき
さゝま
ゝりす
てゆ
そのゆ
実
ゆを
ゝる時ハ
その一ほの
ゝろぎゝも
ゆひくゝへの
ゝゝりあまりゆ
かるゝぎ
よゝりゆゝる

作者のてゝうゝゝゝと作ゝゝ
ゆゝゝゝゝゝゝ玉ひゝゝゝ
ゆゝゝゝの善行ともゆゝべゝと
ゆゝゝゝふゆめゝれゆゝまゝゝくゝちゝゝゝ
○京伯翁が善玉悪玉の　づゝけり
ゆゝゝゝを作りゝゝゝゝ今ゝゝゝ五十
年ゝゝゝゝのゝゝゝゝ家兄京
傳翁ゝ博連ゝゝゝゝ作
とゝゝゝゝ水拠ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ善玉悪玉の作ゝ宋人
陶宗儀が輟耕録巻の十ゝゝ見え
ゝ張道人とゝゝゝゝゝゝゝゝて
作ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ左のごとゝ
○張道人なゝめ張旺とゝ月のちゝるゝゝゝゝゝ
ゝりある時人のゝゝけのやゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

●こゝは又張旺が友ども呉碧山と云へる画師の
夜ふけてのまぐれぞこゝをあり〳〵ふあるくの
人のあるかとあけるゆえまぐるよりの
のぞきこゝまへ張旺目とゆ〳〵〳〵
ものありけふゆえぞゆくそのあとより
いるおいざあるこのだけりのあさがひあく
碧山これをみて大ふあわてこたくふ又
ゆどうるくあるとき又のぞきこれびあること
うきをきする童子二人張旺ゆさえふ
たちちをうつこゝろいらぜんふかくりうち
あをれゆうさゆゆてたちりるへえざん
これをこゝてまきくぶ
りあるるゆちう
つうふあるひてゆ
ゆうとたづひゆえび
これをまるゆと
せざへえざん
てをるありさまを

ある人いわく
をちとをうやまえ画ふくゆて
これびはふうふけんゆえの
あいさえ〳〵こゆ〳〵〳〵き
ありさゆるうこゆ〳〵
ふうふさえひの
えんめいをちと
をかうく
こゆるより
おるるゆ
ゆてこれ
女だうの
あやまうるの
をちとゆいう
ゆもうやまえ
べきゆゆるり
ゆうびとうとふ
きうこれのあう
うとゆつまのゆと
あやいとともえぶふ
るうぶそれをこえぶふ
とおりふゆるふ女房ゆ
又大とあわけてとうと
をのくゆりあうふの
えちうと人ふきゆえて

こゆまやゆふゆうのいう
うるゆあやとうびう
れけれい張旺ゆえゆ
たゆどんと大ふ悟りて
ゆひけゆうれかゆうく
のうゆゆゆありてその
りをやうんとおりひ
あのびゆきゆあ
悪まの鬼どもあうゆ
やきゆるうんさもかのりふ
あのびより内のやうをとうゆひふ
れつゆあちのゆゆゆあのゆくゆあれを
やきゆうゆうさんゆゆふびんとおりひより
悪れえたちまちえ人ゆて善心
とゆりて立りゆひゆあふ天帝天童
ゆとしてけれをおゆうりめゆひゆるうん
一念の善悪ふかゆるゆゆのひうゆかふ
ゆゆあるゆうりあれびゆとそれと

ゆうとおりのりをえふうゆ
ちやうんあうりあゆて
ふのゆうつひふけるうり
ゆれりゆ
しきゆ
ゆゆ
ゆうり
ゆうゆ
ゆあるゆ
ゆうゆ
ゆあゆ
ゆうゆ
ゆうゆ
ゆう

あくを悪とおもひべつひの身をわろびに
今をもそろく多りて善悪の一念ふそ
るべーつあむべーとそこれより心をあら
ため俗をまもてとけのこもふ入り
呉碧山いさうりの村のあども
大ふかしてを張道人とよびる一
のちあい道徳ものたけーとそさ多
至正五年ふあしるのりと耕綠ふ
たそこり京傳翁ゞ善玉の
さしいとれふのとゞたるりくれべ
いれも又耕綠ふえそるゆと
たるとーそ山ゑさしと作るな
のとづく悪かあ昏とそ
とまとり
れんちう
本昏の
ゐやくん
○「たのこい
ゆりやこの

三のうをかせぎそ
田をとふ
一本ものをふ
あをぎとあちこ
ものぐ
をろとこたすけ
そのひまあいと
をこのちんあどもを
やさあくるゆるければ
ハせぐふあひくひんたら
仲もよりつぶつ見へさぜふ
ものつけぎるりのめんの
ふとん一ちのハのけへあくら
ゐりあちのとろぐ
つきへ▲

あさををおつとう
てらめ
ふこのしん
古
安
よく
百姓

粒々皆辛苦とそあぐらの
あせをなげそつくるとみつ
ぎふあさあそのあまりふそにを
ゆーふあ田ふ天理ものかるひふも
やそちく米をつくりて世の人をや
ふあ田ふ士農のうとうをそらまそ
あちよくゆんあきひとの上ものたちちん
ムとの地ふをらぬ田ふふのつくら
あつがくまそこふーきるがあかり
●とわりりく
十四五ア山ふえとりふとろの
ゐりけりつまをあちをとそふうふ百姓
ものをせぎ一日ものぜんるく
ふ作ハ㊀

▲はるのうは人ふもとゑれてこゝにてき
るるゆゑあるこゝろを作れざうあちこ
とあざるまけり●かくて名作れ四十
あちこいこと十ゆくのまぐ一子とまうけを
たゞはるのこゝろをくふたりのひとりだがゑ
ゑこゝまでこゝろふたりくらしたり

第二話

ある日あちこをかてうさゆうたのまれ
たるせんざくのもちゆきーふをりゆ
はてうよりひき
へう一りまあま
このところ人のこを
やらんとまろふんこまりてこまると
きてあちこだつまりきゆゆこまる
ちんせん北八のゆとかーとゆのち
ゆきへんーとこりてくうこう
あーもつまとのどもかわたける
ゆゑかへざうの茶ふませのゆこ
まこふやまうひちや代い二文と
ゆあて五文のだんごもゆまを
ゆきのまどふりてちやみせの
ゆてとたうすあてゆうちけり
●はとりもうさくの人のゆまわと
あがりくあげのをまうる三人つまこ(一)

天使青衣童子

(二)てふやもとこゆがりの男やきこそのだんご一ケ子ちてニッくひうまゆきこ。
ゆこそて尾をとるゆゆふやらんとまるとかちむとこゆくけ●やれのいこゆるゆ
てらのいゆハだんごふあきそどりますいのそのどんごゆ百ちゆうの

(三)

(四)あぶうあせをつくるまーと
来のこをゑをまりますーつーゆ北八のゆ
ちんせんでゆぎ一へう一アをゆのこをろへ
せあのそ今ゑゆうます

二の巻ごく

二の巻ごく
べんこう
ゆうこゆがたうも
ゆうこれども
北八のゆ
ちんせん
五
だんごゆ
はのをこりと
ゆのひますたら
たゆませあゆのより
つーふんをこまとと
ゆふもゆーきのゆうこゆう
あゆけの男がとりーゆり
桃を郎のだんごゆうきーゆう
さるーやゆうあまゆうゆうゆい
ゆこまんゆとゆのひゆをりーれば
あちこあゆいゆをきまーるゆん
あうゆのゆーまえまをぢちゆ屋の
ゆをネゆーニゆゆひーとゆのひゆい
を作ゆをひふーのゆあゆをりける
これゆうあゆう大きくゆうりそ玉まゆこ(五)

張旺

(四)だんごのやうな男の子を
やもくとうこゆあとー
ゆんごをこゆゆひゆるゆあゆ
ようそ名をとゆ
だんごとゆび
ゆのひゆをゆ
まるゆる
ごゆく
ゆあゆ
ゆゆそ
そゆをけり

ある人いはく　おちたがせあひうるはぎ三へうのかりさいそ　ちの人
ひとりのありさまあるべーそれをせあひするちんせんサしめんとん
作者のあやまりなりとそんなりこの地のかごちんふくらべて
そまるはまたもあるべけれどさふあらずつらくふぬるりそい
下女いさるあるるのるりそまとうとうきて六十四文ゆさでめるり
一日やとえまこれねうきりとそうきて六十四文ゆさでめるり
とりつりこれりでるりみるりいせあがまうけゆこいのあるふ
せがたりとえるりたんりるの水のありがこさのせふ
うるあのごとくふ西さるのあらいやーきりせき
きるりのもサハのんてはぎ三へう
一ヒはせちふまんくとあらず
あるさんあやふ
ムまるせそせふと
そーまだりひと
をーこ下女の
ひとりも
つふかどの
りうふう
をまりりら　あこされ
てやら見つうあがら
かりそとよりひとこけさの
めりねぎこくさのさまとだのる
りこうふいきりこりるどくりつりるとえ
せいあんのそーくあい　まの　御めムをるを第一
とまかくありがこえ肉ふあんきよーてこえのめを

いやまくらがいよもうえたありがくえたりとある
でかつともいりーでまきせねぎこ米も
るりりとえんあがりりりりりえーだ
さまこびせいあんのをーくりりりえ
とうえりりまこえそひとりりりさいが
あれがかりふりりとりりきとえ
よき人のりをりりりりまーてや
あやたりのふりりりとりりあや
ふりりりかりりよりりけ身
りりとふりれてりりとりりを
えぶくりりーをえりるふ
るりれりりたりるりりをあれが
たりるりりりをあれが
大みえりるりりりふりりくを
むりりりりくりりりりりりるべー
りりりとりりりりりりりりる
りりりりりりりりりりりりる
うりりりりりりりりりりりりる
りりりりりりりりりりりりる
りりりりりりりりりりりりる
り

第三段

よのてこつぎふうせのつるまるまとびハ
ぎうりとりあつうあ四文ぐられハへ
ひがきめんやらてやアねくうと
かりそめもうろうそうきと
よそのうりとまるるゆいうれのや
ちきれうるまでとてちやるの
礼銭つのてうりゆうくそどる
ゆるてうひがきてうひそうそんを
あやそれ あんどんまるれのねれ
ひりをもつひふやれいうざる
いのをけーうけまうひつて
せちひふうたりとれうしこと
こまをまいさうるうごめちうぐう
あひるとひまいあるひハあきちの
まちううりはそをれてうそー
さりそのはのやりわあけをあうー
なーのらんうかけにうハいのちさうすると
あちうに上ハうとまるくえうたうひハきそたちうり
これみるルボちやのくれのルボちやるれハあやふ
まさるれとハうりがしとれまるうりてかの
ゑ作がせがれあちをううそ言うだんえハ
天のうちちふうるひくるこぶーきのくるまれば

(二)これをえて●こりやだんこりきだろうあそのちをひろうあちとうひられハだんこりふとりとーん
●ちどさるのをまちてとりまあさと
とてスけれハ五たろうかんちんしく
たくさんのちをあうスけれハ大ふよろうそひあひのでき
●こりゃまあせうとそ

かがちやのたひのかがちやるうぎ人の
第一ふまのるべきこのーたとりをとを
きさるたとりよくまうてかりゆうをを
ひうそぎふうあやもよくとそんてそでそ
けまべまそーもあやのうとぎふ
とかりぎ七つの春より
てうんやりてうるるうひ
さをーのひうはのうる本
ゆもをうをちうさぎを
るまうのまるゆるのの
子どもとちがひつぎま
やうをてうまれつき
まうるやうれハ
ちーまうを
たーわ
くくす
かあのひうり
けりあるの時
庄やうたろう
くうをてうそうそ
むねあけのりちを
まきーふ小ども大ぜい
あつまりこけつまろびつあう
そひてのちをひろふるふだん三人
うろうふ立てうそのうるゆる庄やうたろう

ちをゆきけりの
五たろうハ
ねもよをうる
男ゆきうう
温公ふも
ちをうざる
たん三
くうとと
かんちんう
けり

第四話
長作ぢれだん三
万べえつまむらさき
福ろくや万べえ
庄や五たろう

第五段

(四)

(三)

(一)

その二

かくて五たらい四五日ほどくやふあとそでめかあらうの用をとるさんこをあらでつりけりさそけるふきよれんとりあらでつりくたれたんらくれそでちしれとかぶちやのしたのふれちやるまいこをんぶそたんこをしらあけをともだんこれさらふあらこらかつふあてるやまりこまればいらりあのあのさらふ

たんこのもをいさぐ

かんまんのつまこをくめ下女ども
つかれおきてをさんこあらふまこれけるがそ
とんづきてやこりあけてあいのこをきーをあ
つまあらのものあけよりこれをそて十一の子ふ
ふ一

忠孝早染草初編上終

俗名孫三郎 國芳画

俗名涼仙 京山作

長寿堂家傳 御藥 白雪糕 御進物 袋入 折詰

壽世保元方 東篁方

●さんこ七十文目の内不用れいらいづるの藥 代三百五十文

●さんこ七十文目の内不用れいらいづるの藥 代三百五十文

●水のりとを添とらのもの深を泉とるつくいづるこ八丸

●小白しつ小ふ代菓子を用ふれいせいちやうするのつ丸山

●代まつ一ゑのの長い白せちつ同様のもの方をて小

精製 ろ玉 御進物折詰 代袋入 品々

御藥 ちく粉 一袋 四十八文 すんあと三十二文

ちくふあ生ふるふ小ふ代菓を用ふれいせいちやうするのつ丸山

ちのいづる藥

秘家

丸山 かいるやき

江戸日本橋坂本町一丁目 川口宇兵衛精製

忠孝早楽草

下冊

山東庵京山作
一勇齋國芳画

福川堂梓

善善善

忠孝早染草

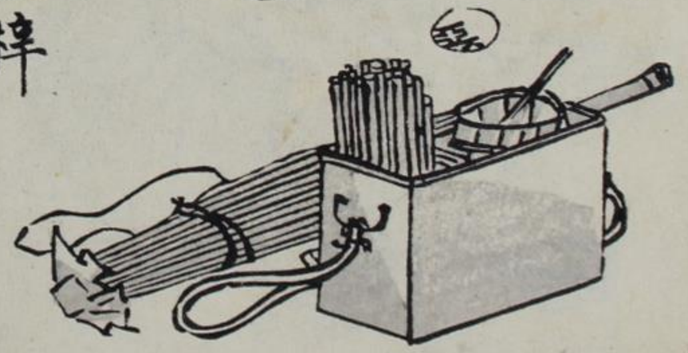
下冊

山東庵京山作

一勇齋國芳画

天保卯春新刻

福川堂梓



忠孝早染草初編下

第六回

千吉
ゆび

ある
だんご

▼かるつちをもちきてりゆき人をまりるえんぐゑん
ぐゑんとうちて大工のまゆまるをたんこんろけて
ゑるつちとさらんとあけまび千吉たちたちたち
のもちたるかるつちだんこんぐひこひこひこひこ
ちいこうく とるぐゑこけりゆ千吉五ゆふ
かるけるさるすいかのうぐひまの一ゆまふ
うまゆまるぐゑゑ若恵のあるぐゑこて盃ゆまふ
人の性せいを若ゆりとゆくゆもむく恵ひゆるて
ときゆゆゆ

みせのゆざう
ふ人の内こそと
あくのもち私もけさ
(一)
ちよ子
(二)
タス

ちらうこと
ゆるしたこと
(一)

(二)
第八
だん三
次へ

三の巻よ
四の巻へ
あとをとがめるかんざー

三の巻へ
五の二

万べえ
実語経

第九図

第十図

ある人をく

だんこ
けんぶく

その二

だんたろうえべえとあくしのだんたろう

万べえ女房
おろく
福ろくや
万べえ

ある人いそく

あそこりのそでめやそびまくよりあとるゆるり
あけたっよりおきるゆる人のあこりまへるり
あるるよりワへひすとあちんあさあーらそも
いまるざあきすたびくあとさまそそ
やうくこそうらいそかやあらふ
やがぬるひとそ下女を
あるりあるをニざあこめ
させあやよりあこふ
あさあーらふさりとへ
めっこのるたへるるり
おこされても一ぞあき
ざるづるきむるきバ
あやのとーえへ
たよりきて
たへ
ゆ
なそ
ワへ
あるあ
ろへ
ひすと

万の火

三 大コろ吉西いこづらふミが
ゆりて下女がゆゆそ母ホ
くらうさせーゆもあり
あこふへ
つゆの
ゆゆて
あふの
万の火
ちぐひ
なんビの
ゆ
だーゆく
るり

きそくいゆく
つるミかんだうの外とるりぐ
たんべ家がや家と孝行ゆる
かんじ善心せんふるゆる三へんよ
あるゆてワくきなすこの
ゆまーあとす

作者口上 江戸京ざー組ぎ
ちゆ目京でんミせ屋ゆ▲さくあよ九

いろでう
月を
よ
ゆ
ゆきえや
ゑれ町人の
せづまふあるゆ
ゆうこゆそもワへひすと
あさゆまるとそえてそのらま
ちあ五雅組ぞのれえこり
ま時のあさゆ二日のあこてう
つりりくてつひゆへるまけゆの
のるくるくとるりて月をたるる
ゆるーつあむべーあさゆ
あそるべーあさゆ

善

悪

千吉

○福さくや万べゑゆ月せづま万の火
せへゑーこと十九げんぶくーて
あこるこくあさゆもあくあきてこせ人
ゆでーあゆのゆがそうとるまあこの千吉へ
五ッのそーるつちでだんべゑゆげんこ
時のひこひふきぞつけくるいづるれバ今十七の一

一包一文五ト分一きこんの茶
拘芝とよくもを大人小児
よゆうき人
用ひて
長生
の良
茶ゆ
▲十三味
くまり
あるこ粉
水晶粉
一包壺下ゆ百廿二
せん分一ゆろを白く
きあとまゆふま
ゆゆ
ゆどのあま
まるうゆも一文用
ひてかんぞせ玉のぞー

天保十五年甲辰歳春新版

善惡早染草 初編 四冊 山東庵京山作 一勇齋國芳画

繪本櫓太鼓 袋入 香蝶樓國貞画

心學教訓 誰身の小槌 合冊 一筆庵戯作 溪齋英泉画

初昔茶番の出花 袋入 五柳亭徳升作 香蝶樓國貞画

落噺四季の花園 合冊 林屋正蔵作 玉蘭齋貞秀画

錦繪草紙類 江戸日本橋坂本町壹丁目 川口屋宇兵衛版

▼此ろの茶あつちの白牡丹一包壹下ケ百廿文ゑいちのうのあつろのふ妙るり

▲あく紙ばこのえりあろのはげしやかう一包壹下ケ五十九文小袖のすそりふつる反うけ合▲女くらべ茶男大ぎんやく懐姙丹曲のめ入わりゆく一戈五文すそ二反ゑ下女ハ五十ゆくとも用やくくるる内ハたくむゆめるりたくむいけのうぐきふあり▲京山てんそ路ゆ茶京山画さん扇あるぐ

本文 こゝよりのちだんべゑ

ゆゑありていとまをのらひざいあるよく

かりあやふ孝行をつくしつぶまてる母の

目を孝心のまるゆそるあまる方のめが

あるそのチ若かんぐうらけてだんべゑ

まりまゆ義のまるゆふうんとてそ若ん

るるゆ ㊀

忠孝早染草初編下終

国文
24L
43

文
図書
年度
文
工
ろ